

# 再発見！何でも見てやろう トピックス（1月）

## 大阪市広域環境施設組合舞洲工場・舞洲スラッジセンター見学

2班 林 純二



11期 再発見！何でも見てやろう講座の最終回、1班火曜コースは1月10日（水）に、1班木曜コースは1月11日（木）に、2班火曜コースは1月17日（水）に、2班木曜コースは1月18日（木）に舞洲環境施設工場見学に行ってきました。JR 桜島からバスに乗り此花大橋の中程に来るとヨーロッパのお城の様な建物が見えてきます。それが築20年になる舞洲工場です。

舞洲環境施設工場は、大阪広域環境施設組合ゴミ処理工場の舞洲工場と大阪市建設局下水汚泥処理工場、舞洲スラッジセンターからなる施設で両工場とも外観及び内部の一部はウィーンの芸術家であるフリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサー氏によりデザインされたものです。建物が地域に根ざして、技術・エコロジー・芸術の融和のシンボルとなるように意図され建てられた施設です。又フンデルトヴァッサー氏は自然界には、決して同じものが存在しないとのことで建物の窓、柱、扉、床、等すべて同じものが無い建物です。



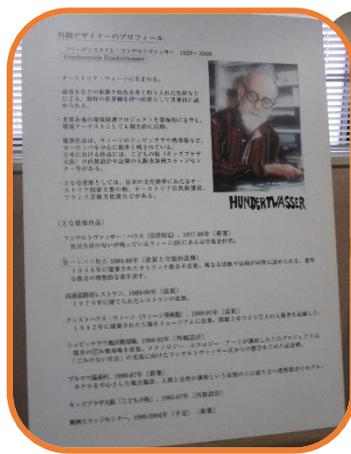
各班2グループに分かれ、各工場の職員より詳しく分かりやすくフンデルトヴァッサー氏のアートと各工場のゴミ処理について説明を受け学んだ。

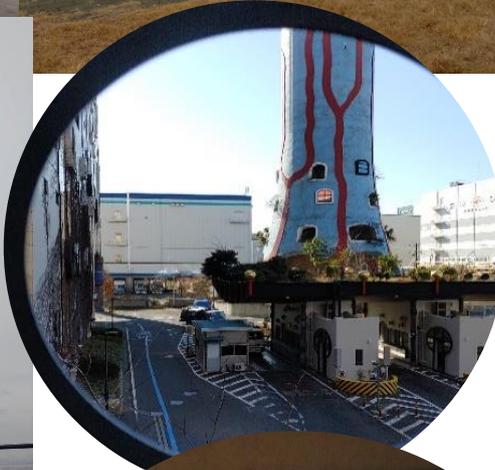
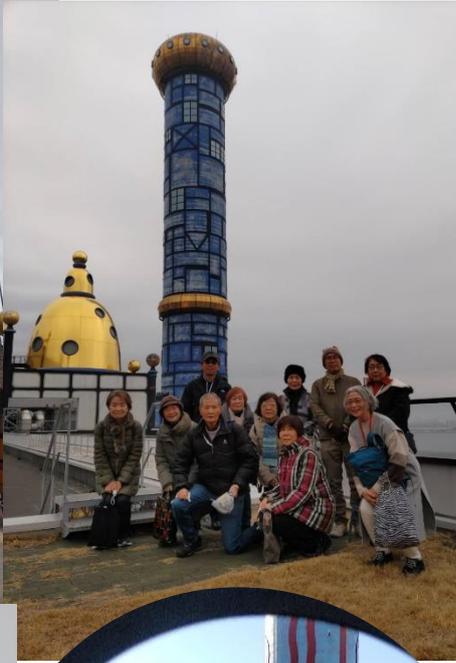


舞洲工場ではフンデルトヴァッサー氏の舞洲工場のデザイン、完成模型、他の建築物、数々の作品を鑑賞した。そして焼却のしくみと公害対策の説明を受けた。

スラッジセンターでは、汚泥の溶融について学び、各工場内、外を見学した。外壁は建物及び倉庫等全てフンデルトヴァッサー氏のデザインで1F 内部（トイレも）もデザインされていた。屋上に上がり大阪を一望し説明を受けた。

皆様、良い芸術を鑑賞し、ゴミ、汚泥の処理について学び、満足されました。!!



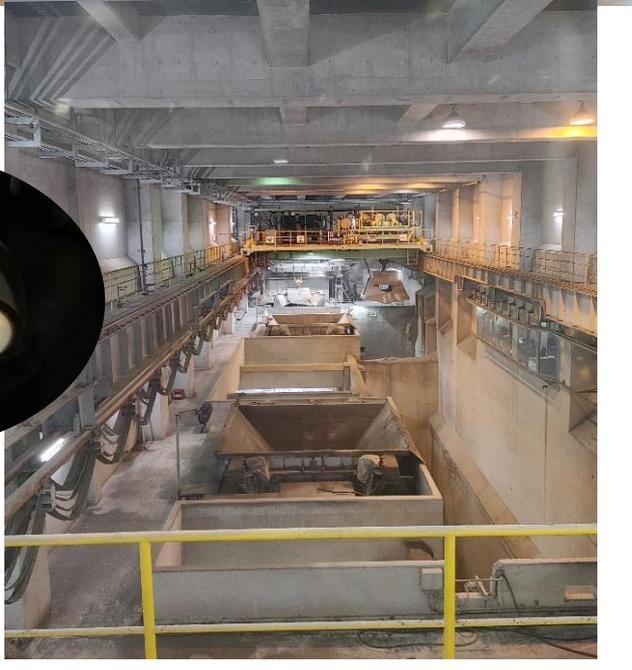


1班・火・木班焼却場・  
スラッジセンター舞洲を背景に



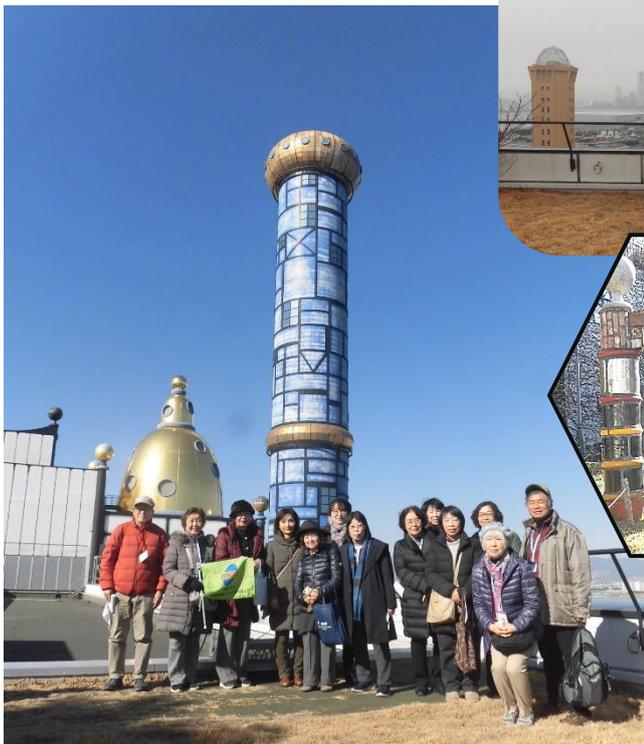


ゴミ処理での発電の仕組みの説明





2班の見学・あいにくの雨です。



(編集山上)